

平成27年度 学校自己評価表

鳥取県立米子高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	生徒の個性・能力の伸長をはかりながら、確かな学力と豊かな人間性の涵養に努め、地域に信頼され地域に貢献する人材を育成する。	今年度の重点目標	1 確かな学力の育成 2 豊かな人間性の育成 3 自己実現のための進路指導の充実 4 地域との連携による学校づくり
---------------------------	--	-----------------	--

評価項目	現状	具体項目	具体目標	具体方策	中間評価	評価に対するコメント	最終評価
1 確かな学力の育成	『学び』創造委員会で育成したい学力の目標を「主体的に学び、考え、表現する力」とし、プレテーマ学習・テーマ学習の実践とともに授業改革に取り組んでいる。今後、目標実現のため更なる取組の推進が必要である。	学力の向上	組織的、計画的に授業改革を推進する 実習や活動を通して系列の充実を図り、資格取得を推進し、前年超の取得者を目指す	授業評価アンケートや授業公開週間での授業研究の推進 定例教科会と学習委員会での内容検討を充実 保育・介護施設実習、野外(体育)実習の実施 合格者増のためのきめ細かい受験指導 英語での多読指導の充実	B	授業アンケート、定例教科会は計画どおり実施出来た。学びの文化祭 in Yonagoの開催で授業改革が一層推進できた。学習委員会での学力向上策の検討はまだ十分とは言えない。	B
		思考力、判断力、表現力の向上	課題解決能力育成のためテーマ学習とプレテーマ学習の充実を図る 探究的学習の拡大を図り、小論文指導を充実させる	有識者講演会、社会人講話の実施 受験も視野に入れたプレゼンテーション力の育成 学習成果発表会の開催 『学び』創造委員会による実践公開の活性化 ジグソー理論を含む学習理論研修への参加促進 外部講師による研修会と校内研修会の実施	B	実習については計画どおり実施出来た。秘書検定2級、英語検定2級など難関資格に合格者を出した。多読指導も計画どおり蔵書を増やし、充実した取り組みが出来た。	B
					A	1年次の産社からプレゼンテーションスキルの指導が行き届き、学習成果発表会では1、2年次生のプレゼンテーション力上がり、外部からも高い評価を得た。	A
					B	3年連続学習理論研修への派遣、東京大学本郷学習科学セミナーへも2年連続派遣、さらに学びの文化祭 in Yonagoを初開催し、アクティブラーニングの推進は大いに進んだ。小論文指導の研修は外部講師を招き充実した内容で実施できた。	A
2 豊かな人間性の育成	遅刻者数、服装等の違反者数は確実に減少傾向にあり、今後も継続した指導が必要である。また、生徒会活動、部活動、環境教育、国際理解教育などへの参加は、主体性のある人間性の育成に向け今後益々重要になってきている。	規律指導の定着	遅刻者数の更なる削減(3削減)を図るとともに、正しい着こなしや挨拶を定着させる	朝の校門指導の実践と挨拶習慣の定着 多遅刻者への事後指導の徹底 服装指導と着こなしセミナーの実施	A	朝の校門指導や着こなしセミナーは予定どおり実施した。制服の着こなしや挨拶習慣の定着は指導の継続が必要である。遅刻者数については全職員指導のもと、昨年度比29%減(1月未現在)となった。特に1年生の多遅刻が減少した。	B
		生徒会活動と部活動の活性化	生徒会主催行事満足度80%以上、部活加入率80%以上を維持する	執行部会の実動と学校祭等への主体的取組の促進 1年生への部活加入調査の実施、見学日程の周知、工夫を凝らした部紹介と一斉部登録の実施	A	執行部は学校祭での後夜祭の企画など、各場面においても積極的な取り組みが見られた。学校行事満足度80%以上、部活加入率80%以上の目標も維持した。	A
		国際理解教育と環境教育の充実	国際交流を促進、環境への関心を高める	アメリカSTA高校への研修派遣 TEAS活動の推進、環境講演会の実施	B	TEAS活動は着実に遂行された。アメリカ派遣は計画どおり3月の実施に向けて、準備が進んでいる。	B
		支援が必要な生徒への援助	生徒情報を共有し適切に生徒をサポートする	情報交換会・いじめ対策委員会の定期的な開催 特別支援委員会の適時開催と適切な対応	B	情報交換会、各委員会の定期的な開催に加えて、状況に応じて適時に対応した。	B
3 自己実現のための進路指導の充実	テーマ学習の成果としてチャレンジする姿勢が醸成されており、生徒の可能性をより広げる指導力が求められる。	キャリア教育の推進と進路希望の実現	産社へテーマ学習を通じ探究心を育て就職希望全員内定と国公立大等への進学実績を高める	産社からプレテーマ学習、テーマ学習と段階を踏んだキャリア教育に体系的に取り組み、進路実現に活かすことが出来た。国公立、難関大合格者も前年以上に増え、国公立は過去最高の数となった。就職も内定率100%となった。	A	産社からプレテーマ学習、テーマ学習と段階を踏んだキャリア教育に体系的に取り組み、進路実現に活かすことが出来た。国公立、難関大合格者も前年以上に増え、国公立は過去最高の数となった。就職も内定率100%となった。	A
		進路指導の充実	教員の指導力を向上させ適切な科目選択指導、進路情報の収集と発信に取組み、チャレンジする姿勢を育てる	先進校視察の実施 進路だよりの刊行 校外模試の実施と受験の促進 進路情報交換会の開催と活用	B	先進校視察、進路だよりの刊行は計画どおり実施出来た。情報交換会も年々情報の浸透が進み、2年次の模試の受験者も増加した。教員の指導力の裾野が広がり、生徒にチャレンジする素地が育ってきた。	B
		地域貢献と近隣施設との連携	地域の美化に貢献し、文化部活動を地域とつなげる	コスモスロード、通学路清掃の実施 ハイホットダンスフェスティバルの開催(ダンス) 成実公民館祭、尚徳地区生き生きフェスタ等への参加	B	清掃活動では秋に土手に柵が作られ計画を変更した。ハイホットDFはホール一杯の来場者があり地域の行事として根付いた。いきいきフェスタのポスター、米子市ホールの広報誌の表紙絵、JR地下道の壁画など、美術系の活動が顕著だった。	A
		情報発信と社会参画	教育活動を発信し、文化活動や芸術教育を地域に発信する	ホームページの頻繁な更新 法や金融等の専門家による講演会、出前授業等の推進 テーマ学習での中心市街地活性化計画への参加 総合美術展の開催 パフォーミングアーツ(演劇・ダンス)の開催	B	ホームページの更新は適切に行えた。年金セミナー、主権者教育講演会、模擬投票など新しい取り組みが出来た。米米プロジェクトは高い評価を得て、地域への発信が出来た。総合美術展も生徒の鑑賞教室を全学年で実施出来た。パフォーミングアーツもホール一杯の来場者で、両部の全国大会出場が果たした。吹奏楽部の公演、面接の出前授業など、多方面で地域へ発信が出来た。	A

評価基準 A: 目的・目標を達成した B: ほぼ計画(予定)どおり推進している C: 取り組みとしてはやや遅れている(取組は進めたが、成果が出ていない) D: 一層の(新たな)取組が必要